

一般社団法人 大学コンソーシアム熊本  
令和6年度 第1回教育のあり方に関する協議会議事要録

1. 日時 令和6年9月25日(水) 15時00分から15時55分

2. 開催方法 オンライン開催 (Zoom)

3. 出席者

講師 甲斐 広文 (熊本大学名誉教授)

出席者 金 栄緑 (企画・運営委員長：熊本学園大学)、西川 毅 (九州ルーテル学院大学)、西村 明博 (熊本学園大学)、鈴木 元 (熊本県立大学)、佐藤 敏明 (熊本高等専門学校)、金岡 省吾 (熊本大学)、河瀬 晴夫 (熊本保健科学大学)、碓塚 光雲 (尚綱大学・尚綱大学短期大学部)、長島 宏一 (崇城大学)、緒方 道郎 (東海大学)、井坂 和義 (中九州短期大学)、宇都 香織 (平成音楽大学)、井上 雄一朗 (代理：熊本県)、中村 雄大 (代理：熊本市)、三枝 敬明 (学生教育部会長)、大谷 順 (国際交流部会長)、柳田紀代子 (地域創造部会)、永田 健吾 (熊本県教育庁：代理)

欠席者 上野 伸一 (九州看護福祉大学)、内村 秀之 (熊本県立短期大学校)、内山 裕二 (放送大学熊本学習センター)、受島章太郎 (熊本県)、松永 直樹 (熊本市)、坂本 憲明 (熊本県教育委員会)、鳥巢 勉 (熊本経済同友会)

陪席者 山縣ゆり子 (尚綱大学・尚綱大学短期大学部)、臼井 伸一 (東海大学)、村本 周三 (熊本県)、今村 清寿 (熊本県教育庁)、田畑 文霧 (熊本市立総合ビジネス専門学校)、坂本 和歌子 (熊本市立総合ビジネス専門学校)

事務局 松村 健史 (事務局長)、梅尾由紀子 (次長)

4. 講演

(1) 議長から講演の前に、

本日は、最初に熊本大学名誉教授の甲斐広文先生から「高等教育の将来展望」という演題での講演の後質疑応答の時間を設ける。その後、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を踏まえた、熊本地域における長期的な高等教育の展望や18歳人口の減少等を踏まえた高等教育の将来像等について意見をいただければと思うとの発言があった。その後講演が行われた。

演題：「高等教育の将来展望 ～大学における研究教育のあるべき姿とは～」

講師：熊本大学名誉教授 甲斐広文 氏

5. 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」についての意見交換

(議長)

先日の9月13日に全国の4年制私立大学の実に59%が定員割れという報道がなされたことはご存じのことかと思う。

これからは18歳人口の減少を念頭に、18歳という限られたパイを奪い合うのではなく、リスキニングを始めとした、多くの市民が大学に集うような、大学の活性化を含めた将来像について意見を伺いたい。先程の講演にも、「異分野融合」「URAの活用」の話があったが、コンソ熊本には様々な学問分野の高等教育機関が参加している。そのような特長も活かしながら、教育・研究リソースの還元や産業界や自治体との連携、初等・中等教育機関との連携等、ご自由にご意見、ご提案願いたい。また、大学には学生を集めるほかに、地域の活性化のための役割もあるかと思うので、その辺も含めて、意見を頂きたい。

(議長)

高校側の立場から大学に期待すること、又は、熊本市以外の特色ある高校から県内の大学の接続や連携等の提案などないか。

(今村氏)

高校では課題研究とか探究活動とか、いろんな場面で大学からの支援を頂いている。連携活動が増えている状況なので引き続き支援を頂ければありがたい。

ただ、大学も熊本市内及び市内近郊に集中しているので、熊本市内及び近郊の高校は支援を依頼しやすいが、郡部の高校は距離的な問題もあり、直接大学を訪問したり、大学の教員に来てもらうような不利なところはあるかと思う。

(河瀬委員)

先程の講演の中で話があったようにURAの存在が大事になるのは間違いないと思うが、URAの人材が不足している。URAの確保が難しい状況の中では一つの大学だけで活用するのではなく、大学間連携というか大学を跨いで活躍するようなURAの存在も大事になってくるのではないかと。例えば、コンソとしてURAの人材バンクとかそういう組織を作り、コンソで一括して大学を繋いで研究者を支えるという方法もあるかと思うがいかがか。

(甲斐氏)

URAを専門とする人は多くは都市部で就業している。待遇も良い。教員としてポストを与えている大学もあると聞く。大学によっては教員にURAの役割を担わせるという大学もある。教員によっては自身の研究はうまくいっていないが、コーディネートとか地域との繋がりとか企業とのパイプとかそういうものを持っている人材を探せばよい。

教員にURAの役割を担わせ、仮に講義を減らすとかしてURAの業務に専任させることもひとつのやり方だとは思う。

URAのポイントは、熊大を例にとればコミュニケーション能力もそうだが、大学教員をどれだけ知っているか、教員と仲良くしているかそうでないのかが非常に重要で、大学教員がURAの業務を担うときにはそういう面では効果的・効率的なところもある。どう人材を探してくるかとなると、オリジナルのその大学独自のURAを育てるにはそのようなやり方が一番効率が良いと思う。

コンソでURAを持つのは一つの良いアイデアとは思いますが、各大学の教員を網羅できるかというところはかなり大変かと思われる。例えば、各大学のURAが集う場をコンソが作るもの一つの考えで情報交換の場をコンソが作るというのは一つのやり方かと思う。

(河瀬委員)

個人的な研究はあまり得意ではないが、URAの業務を得意とするような教員を発掘するというのは新たな発見であった。不足しているURA人材を各大学で発掘・育成するとともに、更にそれらのURA人材をコーディネートできるような存在が大事なのではないかと思う。

(議長) 以上で、本日の協議会は終了する。

以 上